

「神奈川へ出張し、返事が遅れた…」

# 勝海舟 自筆の手紙

幕末の志士・坂本龍馬が師事した勝海舟と神奈川を結ぶ自筆の手紙が、見つかった。歴

史研究家も「貴重な史料」と評価する。

「神奈川表へ罷」と筆で和紙に書かれた手紙は、1862(文久2)年4月4日付。

「麟太郎」の名前で、40歳の勝が福井藩主の松平春嶽の家来あてに出した。「神奈川へ出張し、返事が遅れた」との内容だ。

文中に「函館表之御船にて外国行之御用」



勝海舟の手紙と山本博士

## 横浜の歴史愛好家 山本さん京都で入手

とあるのは、幕府が主導した「健順丸」で勝

が艦長として香港やシ

ャワへ渡航する計画だ

った。2年前に咸臨丸

で渡米した勝は、海軍

と西洋砲術の専門家

で、当時は講武所砲術

師範役だった。

「勝海舟」(筑摩書

房)を著した桃山学院

大元教授の松浦玲さん

(78)「京都市」は「癘

生事件が発生した。

のある字で、勝の手紙

に間違いはない。既刊の

全集ものにも未収録

で、私も入手したかっ

になったが、勝は横浜港の外国の外交官や商人に会い、シヤワなど外国の情報聞き準備していたとみられる」と指摘する。

山本さんは昨年、勝

が設計した神奈川台場

(横浜市神奈川区)の

古写真を入手。経営す

る「三陽物産」(同市

中区)から台場型の菓

子「勝サブレ」を今春

発売した。「勝が龍馬

と知り合ったころの手

紙で、この4カ月後に

勝と神奈川とのゆかり

が深まり、さらに研究

を進めたい」と話して

いる。

【網谷利一郎、写真も】